

バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No:64



2014年11月

NPO 法人 日本バスケットボール振興会

野菜・食材だけでなく
白髪染めも安心なものを



0
化学染料
ゼロ

ヘナは
自然派の
白髪染め
です！

グリーンノート ヘナ シリーズ 各100g

ヘナ・ヘナスーパー (早染めヘナ)

オレンジブラウン 1500円+税
ライトブラウン・ナチュラルブラウン 1600円+税
スーパーブラウン 2200円+税

オーガニータ (エコサート認証ヘナ)

ビターオレンジ・ノンカラー 1800円+税
サハラブラウン・アースブラウン・ディーブラウン 2300円+税
ノンカラー 1600円+税

植物成分100%
お湯で溶いて
塗るだけで簡単！



潤い
を閉じ込めて
艶やかに

コシ
が出て根元から
立ち上がる

ボリューム
アップ

しっとり
落ち着いて
まとまる

やっぱり天然が一番体にいい！
人工的な美しさはもういらない！

グリーンノートのヘアケアシリーズはシリコンはもちろんのこと、
石油系成分は一切使用していません。人間本来に備わる美しさを
最大限に引き出すことを考えて自然派の研究者が作りしました。

天然由来成分100%

石油系成分を一切使わない



両タイプ共通 全3色

脱ケミカル
ライフ！

グリーンノート ヘアケア シリーズ

敏感肌に・洗うたびに髪質向上
自然葉 (しぜんは) シャンプー

本体 300ml 3000円+税
ミニ 30ml 400円+税

リンス
不要

部分用白髪隠し
ヘアカラースティック

2200円+税

広範囲用白髪・薄毛隠し
ヘアカラーファンデーション

パクトセット 3600円+税
詰め替え用 3100円+税

製造販売元：
株式会社 グリーンノート
東京都中野区東中野2-20-13
☎ 03-3366-9701

詳しくは公式サイトをご覧ください ▶▶

<http://www.henna.co.jp>

目 次

- 第17回FIBA女子世界選手権大会・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
日本代表予選ラウンド突破ならず
- 第17回仁川アジア競技大会は男女共に銅メダル・・・・・・・・ 6
- 秋の講演会・交流会開催・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
bjリーグ専務取締役 阿部達也氏
- 日本協会深津会長辞任・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
- ドクターと呼ばれた国際審判員・・・・・・・・ 普及部 20
- 1964 東京オリンピック当時の協会機関誌活動・・・・・・・・ 歴史部 22
- 昭和7年明治大学籠球部米国遠征メンバー・・・・・・・・ 歴史部 25
- 人物抄
稲垣安二さん・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
- 会員だより
バスケットボール湘南だより (その8)・・・・・・・・ 中瀬達雄 29
サンフランシスコに遠征して・・・・・・・・ 増井英明 32
愛知県立明和高校OBの草の根活動・・・・・・・・ 三谷千尋 35
38年間の高校教員生活を終えて (その1)・・・・・・・・ 須田武志 36
- 12月21日はバスケットボールの日・・・・・・・・ 38
「Basketball Birthday Classic 2014」開催のご案内
- 事務局だより・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
- プラザ こぼればなし・・・・・・・・・・・・・・・・ 41

第17回 FIBA 女子世界選手権大会

日本代表予選ラウンド突破ならず

[編集部]

9月27日からトルコで開催された第17回FIBA女子世界選手権大会で、女子日本代表は予選ラウンドで世界の強豪を相手にして果敢に戦ったが、ベスト8に進出することができず予選ラウンド敗退という残念な結果に終わった。

この世界選手権大会は各大陸から合計16チームが出場し、予選ラウンドは4チームずつ4つのブロックに分けて総当たりリーグ戦を行い、各ブロック1位4チームが準々決勝へ進む。2～3位チームは準々決勝予選に進み上位4チームが準々決勝に進む。今大会は下位の順位決定戦は行われず、予選ラウンド最下位チームはその時点で敗退となる。日本代表は予選ラウンドでAグループに入ったが、相手はFIBAランキング6位のスペインをはじめ、前回大会準優勝のチェコ（5位）やブラジル（7位）といった上背のある強豪国ばかりで、奮戦したものの勝利を得ることはできなかった。

主なチームスタッフ

役職	氏名	所属
チームリーダー	高橋 雅弘	日本協会
ヘッドコーチ	内海 知秀	日本協会
コーチ	梅寄 英毅	山梨学院大学
マネージャー	山崎 舞子	JX-ENEOSサンフラワーズ

選手

NO	選手名	P	身長 cm	体重 kg	年齢 歳	所属
4	大庭 久美子	SG	169	59	26	デンソーアイリス
5	高田 真希	PF	183	78	25	デンソーアイリス
6	間宮 佑圭	C	184	75	24	JX-ENEOSサンフラワーズ
7	山本 千夏	SG	176	67	23	富士通レッドウェーブ
8	宮元 美智子	SG	175	60	28	三菱電機コアラーズ
9	久手堅 笑美	PG	165	61	30	トヨタ自動車アンテロープス
10	渡嘉敷 来夢	PF	192	80	23	JX-ENEOSサンフラワーズ
11	栗原 三佳	SG	176	67	25	トヨタ自動車アンテロープス
12	長岡 萌映子	SF	182	73	20	富士通レッドウェーブ
13	大神 雄子	PG	170	61	31	日本協会
14	宮澤 夕貴	SF	182	70	21	JX-ENEOSサンフラワーズ
15	王 新朝喜	C	189	85	26	三菱電機コアラーズ
	平均		178	69	25	

*年齢所属は2014年9月18日現在

出場国と予選ラウンド組分け

A	ブラジル	チェコ	日本	スペイン
B	カナダ	フランス	モザンビーク	トルコ
C	オーストラリア	ベラルーシ	キューバ	韓国
D	アンゴラ	中国	セルビア	アメリカ

9月27日 スペイン戦

	1P	2P	3P	4P	計
日本	13	15	4	18	50
スペイン	21	21	24	8	74

第1ピリオド、日本は、開始早々#10 渡嘉敷のポストプレイで先制し幸先のよいスタートを切ったが、スペインの高さとパワーを生かしたプレイで得点を奪われ、残り2分半に9-19と10点リードされる。残り1分#8 宮元が速攻を決めて食らいつき13-21の8点ビハインドで終わる。

第2ピリオド、日本はスペインの連続ファウルを誘い、開始2分でスペインが4ファウルとなる。しかし日本は、ミスが続いてそのチャンスをものにできず、スペインの速い攻撃によって開始4分に17-29と12点差に広がってしまう。そこから日本は、ディフェンスの頑張りから#9 久手堅の3Pシュート、#6 間宮のインサイドプレイ、#10 渡嘉敷のフリースローなどで残り1分43秒に28-35と7点差まで追いつける。しかし、スペインも3Pシュートや速攻等で再びリードを広げ、28-42の14点差で前半を終える。

第3ピリオド、スペインは立ち上がりから高さを生かしたゴール下プレイで連続得点する。日本も栗原がジャンプシュートを決めるが、その後ミスプレイとシュートミスが続き7分間無得点となる。その間スペインは、高い確率でシュートを次々と決めて得点を重ね、一気に突き放す。日本は、このピリオドで4点しか上げられず、32-66と大幅なリードを許す。

第4ピリオド、日本は、#9 久手堅がスティールから速攻を決めてスタート、#10 渡嘉敷のミドルシュートで得点を重ねる。スペインは控えメンバーの出場で得点が伸びない中、残り3分にアンスポーツマンライクファウルを犯す。日本は、#10 渡嘉敷がしっかりとフリースローを決めると#4 大神の得点、#5 高田のジャンプシュートで追いつける。日本は、このピリオドでスペインの得点を8点に抑えたが、第3ピリオドの低得点が大きく響いて、50-74で敗れた。

ちなみにシュート成功率を見ると、3Pシュートではスペインの25%に対して日本は10%、2Pシュートではスペインの47.5%に対して日本は41.9%で、高さのある相手ディフェンスによってシュートが抑えられている。

9月28日 チェコ戦

	1P	2P	3P	4P	計
日本	16	22	13	6	57
チェコ	18	15	20	18	71

第1ピリオド、日本は、#5 高田のバックシュートで先制、#10 渡嘉敷のジャンプシュート、#8 宮元の3Pシュートで7-2とリードする。チェコは高さを生かしてゴール下で攻撃するがシュートが決まらない。日本は#8 宮元が2本目の3Pシュートを決めて良い流れをつくるが、チェコも3Pシュートを決めて対抗し、日本が16-18の2点ビハインドでこのピリオドを終える。

第2ピリオド、日本は、開始早々#11 栗原がドライブから相手ファウルを誘いフリースローで追いつくと、#9 久手堅もドライブからのシュートで続く。ディフェンスで#10 渡嘉敷が相手シュートをブロックして集中力を発揮すると、残り5分に#8 宮元が再び3Pシュートを決めて29-24とリードを奪う。その後も#10 渡嘉敷のバスケットカウントや、#15 王のインサイドプレイ、#11 栗原の3Pシュートでリードを広げるが、チェコも高さのあるゴール下シュートで食らいつき、38-33と日本の5点リードで前半を終える。

第3ピリオド、チェコが3Pシュートと高さのあるプレイヤーにボールを集め連続得点すると、日本も#6 間宮の連続得点で頑張り、#8 宮元のこの試合4本目となる3Pシュートで日本はリードを譲らない。しかし残り5分を切ってから、日本の得点が伸びない間にチェコは連続得点し、更に速攻で残り1分24秒に48-48と同点になる。日本は#8 宮元が3Pシュートを定めるが、終了間際にチェコがブザービーター3Pを決め、日本は51-54と逆転される。

第4ピリオド、開始早々チェコが3Pシュートを決めたのに対して、日本は、3連続ターンオーバーから相手に速攻を決められ、開始2分で51-60と引き離される。日本はタイムアウトで立て直しを図るが動きが鈍くなり得点ができない。この間、チェコは更なる連続得点で突き放し、日本は残り3分24秒に54-67とリードを広げられる。日本は最後のタイムアウトを取って打開しようとするが流れは変わらず57-71で敗れた。

日本は、第3ピリオドまで一進一退で食らいつき一時はリードしたが、疲れからかこのピリオドで6点しか得点できなかったことが敗因となった。

日本はシュート成功率においても、2Pシュートが35.9%、3Pシュートで37.5%と頑張った割には低得点となり、高さのある相手に対抗するため徐々に体力を消耗し、それが2Pシュートの成功率に影響しているのかも知れない。ちなみにチェコのシュート成功率をみると2Pシュートで59.1%、3Pシュートでは45.5%で日本を上回っている。

10月1日 ブラジル戦

	1P	2P	3P	4P	計
日本	11	20	14	11	56
ブラジル	22	19	19	19	79

第1ピリオド、日本は、#8 宮元の先制点で良い展開と思われたが、その後ターンオーバーからブラジルに連続得点され、開始5分で4-15と引き離される。日本は、その後もターンオーバーなどミスが続き、残り3分で6-12とリードされる。日本は、#8 宮元の3Pシュートや大神のシュートで盛り返すが度重なるターンオーバーが響いて11-22でこのピリオドを終える。

第2ピリオド、日本は、立ち上がりからブラジルに確率の高いシュートを決められ、開始2分には11-31とブラジルに20点ものハンデを付けられる。日本はその後、ディ

フェンスをゾーンに切り替えて相手の動きを抑えると、#11 栗原の3 Pシュートや#9 久手堅の攻守にわたる活躍で残り4分に23-35と追いつける。その後も日本は#6 間宮の活躍や#11 栗原のこの試合3本目の3 Pシュートなどで追撃したが、ブラジルも高さを武器に得点し、日本は31-41の10点ビハインドで前半を終える。

第3ピリオド、日本は、開始早々から相手のシュートをブロックした高田が奮起、ジャンプシュートや渡嘉敷へのアシスト等でチームも勢いづく。対するブラジルは動きが鈍くなり2分間無得点で、日本が42-46と4点差に迫る。しかしブラジルもアウトサイドからの連続3 Pシュートなどで立て直し、更にはフォワード陣の正確なシュートで再び引き離し、日本は45-60と15点のビハインドを背負う。

第4ピリオド、追いつきたい日本は、#8 宮元の3 Pシュートや、#9 久手堅の速攻などで食らいつくが相手の勢いは止まらず、残り5分になっても54-67と点差は縮まらない。日本は、メンバーを入れ替えて反撃を試みるが、高さもあるブラジルのディフェンスに手を焼き、思うようにはシュートまで行かず、反撃には程遠く結局56-79という大きな得点差で敗れ、予選ラウンド突破はならなかった。

これまでの試合のシュート成功率を見ると、それなりに頑張ってきた日本のようであったが、このブラジル戦では大きく引き離され、2 Pシュート成功率で、ブラジルの55%に比べ日本は37%という結果であった。日本は、3 Pシュート成功率で38%対35%とブラジルを上回っていたが、体力の消耗とともに2 Pシュートの成功率が極端に悪くなって得点が伸びず敗戦となった。

まとめ

高さのある強豪がひしめく世界選手権大会で、上背のない日本のスピードバスケットがどこまで通用するかが試された今回の世界選手権大会だったが、世界選手権に出場してくる各国は、高さに加えてオールラウンドのバスケットを兼ね備えているように感じた。

今や各国のバスケットは男女を問わず、高さプラス速さとオールラウンドのバスケットに様変わりしているようであり、日本は国際的に変わりつつあるバスケットに対して、どのように対抗していくのか、改めて課題を突き付けられた今回の世界選手権であったと言えよう。



ブラジルの高身長選手に阻まれる間宮選手

写真提供 J B A

今回の世界選手権大会に出場したスタッフや選手の経験や意見を、丁寧に聴取して検討し、日本のバスケットボール技術の再構築に役立てるべき時がきている。

国内大会の盛り上がりで満足している時期を大幅に過ぎていることを、全国のバスケットボール関係者が心にとめるべきではなかろうか。

第17回仁川アジア競技大会は男女共に銅メダル

[編集部]

9月20日から韓国・仁川で開催されたアジア競技大会において、男子は3位、世界選手権と同時期に開催された女子も3位と健闘し、共に銅メダルを獲得した。男子日本代表は若手を中心に構成され、女子日本代表は主力が世界選手権へ出場したためアジア競技大会のために別チームを編成しての出場だったが、各々奮闘し好成績を上げた。

男子日本代表は3位

今シーズンから指揮を取り始めた、長谷川健志ヘッドコーチのもと、これまでの国際ゲームで勝ち星の少なかった男子代表だが、3位決定戦で接戦を制し20年ぶりにアジアの上位グループに入り3位となった。

[主な男子チームスタッフ]

役 職	氏 名	所 属
ヘッドコーチ	長谷川 健志	日本協会
アシスタントコーチ	佐々 宣央	リンク栃木ブレックス
アシスタントコーチ	古海 五月	日本協会
マネージャー	七川 朋也	パナソニック㈱

[男子選手]

No.	氏 名	P	身長 cm	体重 kg	年齢 歳	所 属 (出身校)
4	石崎 巧	P G	188	85	30	(東海大学)
5	小野 龍猛	F	197	100	26	千葉ジェッツ
6	比江島 慎	P G	190	87	24	アイシンシーホース三河
7	古川 孝敏	S G	190	90	26	リンク栃木ブレックス
8	太田 敦也	C	206	110	30	浜松・東三河フェニックス
9	辻 直人	P G	185	84	25	東芝ブレイブサンダース神奈川
10	竹内 公輔	C F	206	98	29	広島ドラゴンフライズ
11	田中 大貴	S G	191	88	23	トヨタ自動車アルバルク東京
12	張本 天傑	F	198	88	22	トヨタ自動車アルバルク東京
13	富樫 勇樹	P G	167	67	21	(モントロス・クリスチャン高校)
14	金丸 晃輔	S G	193	78	25	アイシンシーホース三河
15	竹内 譲次	F	207	98	29	日立サンロッカーズ東京
	平均		192	89	26	

[男子試合方式]

予選1次ラウンド	<p>前回大会上位8チームを除く参加8チームを2つのグループに分け、1回戦総当たり戦を行う。各グループ上位2チームは予選2次ラウンドへ進出する。</p> <p><グループA> モンゴル、ホンコン・チャイナ、クウェート、モルディブ</p> <p><グループB> サウジアラビア、カザフスタン、パレスチナ、インド</p>
予選2次ラウンド	<p>前回大会上位8チームに、予選ラウンド各グループ上位2チームを加えた12チームを4つのグループに分け、1回戦総当たり戦を行う。各グループ上位2チームは準々決勝ラウンドへ進出する。</p> <p><グループC> 中国、チャイニーズ・タイペイ、B2位</p> <p><グループD> 韓国、ヨルダン、A2位</p> <p><グループE> イラン、フィリピン、B1位</p> <p><グループF> 日本、カタール、A1位</p>
準々決勝ラウンド	<p>2次ラウンド各グループ上位2チームを2つのグループに分け、1回戦総当たり戦を行う。各グループ上位2チームは決勝トーナメントへ進出する。各グループ下位2チームは5-8位順位決定戦にまわる。</p> <p><グループG> 4チーム</p> <p><グループH> 4チーム</p>
準決勝	<p><グループGの1位 対 グループHの2位></p> <p><グループGの2位 対 グループHの1位></p>
3位決定戦	準決勝の敗者同士
決勝	準決勝の勝者同士

[日本男子代表の結果]

予選2次ラウンド 9月24日 クウェート戦

	1P	2P	3P	4P	計
日本 ○	25	30	22	12	89
クウェート ●	19	13	20	23	75

予選2次ラウンド 9月25日 カタール戦

	1P	2P	3P	4P	計
日本 ●	22	9	25	15	71
カタール ○	21	18	19	14	72

以上の結果、日本は予選2次ラウンドのグループFで上位2チームに入って準々決勝ラウンドに進み、4チーム総当たりのリーグ戦で準決勝進出を狙う。

準々決勝ラウンド 9月26日 イラン戦

	1 P	2 P	3 P	4 P	計
日本 ●	15	22	9	13	59
イラン ○	16	29	16	21	82

準々決勝ラウンド 9月27日 中国戦

	1 P	2 P	3 P	4 P	計
日本 ○	14	19	21	25	79
中国 ●	21	21	19	11	72

準々決勝ラウンド 9月28日 モンゴル戦

	1 P	2 P	3 P	4 P	計
日本 ○	29	20	22	25	96
モンゴル ●	23	13	18	16	70

以上の結果、日本は2勝1敗で上位2チームに入って準決勝へ進出した。

準決勝ラウンド 10月1日 韓国戦

	1 P	2 P	3 P	4 P	計
日本 ●	20	14	9	20	63
韓国 ○	18	16	15	22	71

日本は、前半攻守ともうまくかみ合っただが、第3ピリオドから徐々に引き離され、第4ピリオドでは一時10点の差をつけられ、追撃したものの及ばなかった。平均シュート成功率が韓国の53%に比べ日本は35%で、その差が勝敗を左右したと述べている。

3位決定戦 10月3日 カザフスタン戦

	1 P	2 P	3 P	4 P	計
日本 ○	20	22	15	19	76
カザフスタン ●	22	15	19	16	72

[男子最終順位]

優勝 韓国 (12年ぶり4回目)

第2位 イラン

第3位 日本

第4位 カザフスタン

第5位 中国

第6位 カタール

第7位 フィリピン

第8位 モンゴル

上記スコアで見ると、敗れたカタル戦、イラン戦、韓国戦のいずれにも得点が1桁のピリオドがある。男子において10分間のピリオドで1桁の得点しか取れないピリオドがあるとすれば、そのゲームの勝利は難しいだろう。敗れたゲームの2Pシュート成功率を見ると、イラン戦で35.3%、韓国戦で34.8%である。3Pシュート成功率がいずれの相手にも上回っているのに、2Pシュートの差がそのまま結果に影響している。高さのある相手のディフェンスが影響しているのかもしれないが、作戦的にも2Pシュートの成功率をUPすることが今後の課題ではなかろうか。

更に敗れた試合においてはいずれでも第3ピリオドで相手にリードされて、第4ピリオドで追いかける結果になっている。体力も消耗してくる第4ピリオドの追い上げは容易ではないだろうし、作戦的にもこのあたりを分析して対応を練る必要がある。

女子日本代表も3位

女子日本代表はトルコで開催された世界選手権大会と日程が重なったため、アジア競技大会チームを世界選手権大会へ出場する選手以外で編成して臨んだが、こちらも奮闘して3位となった。

[主な女子チームスタッフ]

役 職	氏 名	所 属
ヘッドコーチ	一色 建志	日本協会
アシスタントコーチ	小笠原 真人	デンソーアイリス
マネージャー	田邊 広子	日本協会

[女子選手]

NO	選手名	P	身長 c m	体重 k g	年齢 歳	所 属
4	馬瓜エプリン	C	180	69	19	アイシン・AW・ウィングス
5	諏訪 裕美	C	183	88	28	アイシン・AW・ウィングス
6	本川 紗奈生	S G	176	65	22	シャンソン化粧品シャンソンVマジック
7	森 ムチャ	P F	180	70	25	トヨタ自動車アンテロープス
8	川原 麻耶	S G	168	55	26	トヨタ自動車アンテロープス
9	牛田 悠里	P F	181	62	24	デンソーアイリス
10	町田 瑠唯	P G	162	57	21	富士通レッドウェーブ
11	三好 南穂	P G	167	60	20	シャンソン化粧品シャンソンVマジック
12	加藤 瑠倭	S F	173	65	19	デンソーアイリス
13	大沼 美琴	S F	174	62	21	J X - E N E O S サンフラワーズ
14	渡邊 亜弥	S G	169	59	22	三菱電機コアラーズ
15	赤穂 さくら	C	184	78	18	昭和学院高校3年
	平均		175	66	22	

*年齢所属は2014年9月18日現在

[女子試合方式]

予選ラウンド	前回大会上位 6 チームを除く参加 5 チームによる 1 回戦総当たり戦を行う。グループ上位 2 チームは決勝トーナメントへ進出する。 <グループ A> モンゴル、ホンコン・チャイナ、カザフスタン、ネパール、カタール
準々決勝	前回大会上位 6 チームに予選ラウンド上位 2 チームを加えた 8 チームによるトーナメント戦を行う。 以下の対戦を行い、勝者は準決勝へ進出、敗者は 5 - 8 位決定戦へまわる。 < B > 中国 VS A 2 位 < C > チャイニーズ・タイペイ VS タイ < D > インド VS 日本 < E > A 1 位 VS 韓国
準決勝	< B 勝者 対 C の勝者 > < D 勝者 対 E の勝者 >
3 位決定戦	準決勝の敗者同士
決勝	準決勝の勝者同士

準々決勝

9 月 2 8 日 インド戦

	1 P	2 P	3 P	4 P	計
日 本 ○	15	21	22	12	70
インド ●	5	13	9	10	37

準決勝

1 0 月 1 日 韓国戦

	1 P	2 P	3 P	4 P	計
日 本 ●	12	9	22	10	53
韓 国 ○	9	17	18	14	58

第 3 ペリオドを終わって 4 3 - 4 4 と接戦に持ち込んだ日本だったが、第 4 ペリオドで韓国のゾーンディフェンスを攻めあぐんで得点が伸びず、上背が 2 0 2 c m ある相手センターにリバウンドを支配され、5 点差で決勝進出を逃した。

3 位決定戦

1 0 月 2 日 チャイニーズ・タイペイ戦

	1 P	2 P	3 P	4 P	計
日 本 ○	15	16	6	24	61
チャイニーズ・タイペイ ●	13	20	16	10	59

前半互角に戦った日本だったが、第 3 ペリオドに入って 6 分間で 1 ゴールという拙攻になり、チャイニーズ・タイペイに 1 2 点のリードを許す。しかし第 4 ペリオドに入って先制得点すると、すぐさまオールコートプレスディフェンスを仕掛け 5 分間相手に得点させず、残り 1 分を切ってから逆転に成功し、最後にフリースロー 1 本を決めて 2 点差の勝利。

[女子最終順位]

- 優勝 韓国（20年ぶり4回目）
- 第2位 中国
- 第3位 日本
- 第4位 チャイニーズ・タイペイ
- 第5位 カザフスタン
- 第6位 インド
- 第7位 タイ
- 第8位 モンゴル

男子のゲームでも触れたが、女子においても得点が極端に少ないピリオドがある。準決勝韓国戦の第2ピリオドで9点、3位決定戦の第3ピリオドではわずか6点しか取れていない。やはりオフェンスのシュート成功率が問題のようであり、準決勝の韓国戦における2Pシュート成功率は、28.6%と韓国の51.1%をはるかに下回っている。3Pシュートでは相手を上回る成功率であるのに、肝心のミドルシュートを含む2Pシュートの成功率が低ければやはり勝利には結び付かない。バスケットボールにおいてシュートは基本プレイの一つであることから、そのあたりを強化のターゲットにする必要があるのではなかろうか。

それでも3位決定戦の第4ピリオドで、オールコートディフェンスを仕掛けて相手のミスを誘い、第3ピリオドまでの12点ビハインドを跳ね返した猛ラッシュは称賛に値する。このような踏ん張りが韓国戦で発揮できていれば、決勝進出もあったであろうに。



3位決定戦 速攻で攻める女子日本代表 写真提供 JBA

人物抄

稲垣 安二 さん



稲垣さんは、昭和5年(1930)4月、福岡生まれで今年84歳を迎えられ、町田のご自宅でゆったりと過ごしておられてお元気である。旧制中学4年生の頃バスケットボールを始められたが、当時は籠球部と称していた。昭和24年(1949)学制改革によって旧制高校や専門学校等が大学に昇格したとき、日本体育大学1回生として入学し、バスケットボール部に入ったが2年生の時、練習中に右足アキレス腱を断絶、3年生になって復活した。その頃関東大学新連盟に所属していた日体大は、1部で中ほどの成績だったという。

昭和28年(1953)に日体大を卒業され、同大学助手として体育関係の仕事につかれたが学生の数に比べて教職員が少なかったこともあって、すぐにバスケットボール部部長を任された。

バスケットボールの指導者が少なかった当時、昭和32年には部長兼監督に就任され、そこから日体大の高度成長が始まる。稲垣さんは、昭和35年(1960)から昭和40年までの6年間、春の選手権や秋のリーグ戦で通算7回の優勝を勝ち取り、強い日体大を作り上げた。当時は慶応大学や立教大学、早稲田大学などが所属していた旧連盟の方が技術的に優っていたが、両連盟で主催する春の選手権大会で日体大はそれらのチームと互角に戦えるようになった。

昭和41年(1966)、日体大はオールジャパンで3位になり学生の力が向上したが、この頃マスコミを始め多方面から関東学生の新旧2連盟併存が批判されるようになった。

稲垣さんはその前年の昭和40年(1965)から既に日本協会理事として活躍されていたが、当時の吉井四郎強化委員長の「大学チームの強化が日本のレベルを引き上げることに繋がる」という主張に、新旧両連盟は合併への道へ進む。稲垣さんは合併した新しい関東学生連盟で常任理事、副理事長、理事長を歴任され、この連盟の発展に寄与された。

新旧連盟が合併して順調に推移した昭和51年(1976)、所属していた7大学が関東学生連盟を脱退して別の連盟を組織する事態が発生、当時の役員や各大学OBの間で激論が交わされたが結局物別れとなり、東京10大学連盟が結成された。

稲垣さん率いる日体大は関東学生連盟に残ったが、関東地区における大学2連盟制は世間からも批判を浴び、稲垣さんが理事を務めていた日本協会も関東学生の1本化に向けて動き出した。合併は容易には捗らず結局5年の長きにわたって関東で二つの学生連盟が存在する結果になったが、昭和57年(1982)二つの連盟は解消し、新たに関東大学連盟が組織された。

学生連盟が大きく揺れ動いていた時でも、稲垣さんは母校日体大の強化に努め、女子においても全国で1～2を争う強豪校へ育て上げた。日体大がインカレで男女アベック優勝を6回も成し遂げているのが丁度この頃である。

稲垣さんはその後、関東大学連盟で会長を引き受けられているが、その頃は日本協会理事を始め学生連盟の仕事や本来の母校日体大での仕事に忙しく、大変な苦勞をされたとい

う。

バスケットボールの技術を研究されてきた稲垣さんは、日本協会でも多くの役職を務められ、平成元年(1989)に理事を退任するまで実に24年間も日本協会理事を歴任された。日本協会の役員の中で、これほど長きにわたって理事を務められた方はおられないのではなかろうか。昭和40年(1965)、日本協会技術副委員長を委嘱されてから、女子ナショナルチームのコーチや団長を多く務め、世界選手権大会などの国際舞台でも輝かしい成果を生み出している。

この間、数度に及ぶ女子強化委員長の職もこなされ、日本女子代表選手の競技力向上に貢献されている。

スポーツにおける学者でもあった稲垣さんは、昭和62年(1987)文部省が制定した「社会体育指導者育成事業」に関連して専門的な立場からバスケットボールの知識・技能向上を担当する社会体育指導者育成委員長を委嘱され、地域スポーツ指導員の育成や競技力向上のためのカリキュラムを作成して文部省へ提出している。その甲斐あって日本協会の事業として、地域スポーツ指導員育成、競技力向上コーチ育成について文部省から認可を受けている。

大学におけるいわゆる教え子、日体大卒業生で稲垣さんを師と仰ぐ保健体育関係教員は全国に散らばり、地方を含めてバスケットボールの普及発展に大きな力を発揮している。

各県の理事長を始め、地方の高校をトップクラスに育て上げる手腕を持つ先生方にはやはり日体大OBが多い。単にバスケットをやるだけでなく幾多の教育者を育てられた学者としての稲垣先生の影響は、現在でも全国的に顕在している。

そんな活動を続けられた稲垣さんは、バスケットボール界における学識経験者として、日本体育協会から理事への就任を要請されたが、その頃母校日本体育大学の学長に就任することが決まり辞退されている。

バスケットボールの技術向上をライフワークとして取り組まれてきた稲垣さんは、日本協会理事を退任されてから、振興会の役員としても活躍されている。

平成元年、それまで実業団が主対象だった実業団協力会を、日本全体のバスケットボールの向上に役立つ団体として、学連のOBを始め日本全体のバスケットボール経験者を対象とする振興会組織へと発展改称した時、稲垣さんは副会長としてその先頭に立って尽力された。

振興会会員の増強や学連OBの勧誘、そして振興会が日本のバスケットボールの技術向上にも一役買うべきと云う持論は、かつて日本協会で技術部門を受け持っていた熱意と、役員として多々出場された国際大会での経験からに他ならない。

日体大の稲垣さんと云えば日本のバスケットボール界で知らない人はいないほど多くの役職を引き受けられており、このようにバスケットボールの発展に取り組まれてきた熱意が、これからも多くの人に引き継がれ、日本の国際的競技力の向上につながることを期待したい。

東京世田谷にある日体大のキャンパスは、3年ほど前に全面的改修を終え、明るくて近代的な学び屋になって、かつて厳しい教育がなされた当時とはうって変り、これから未来を育む教員を養成するのにふさわしい環境になっている。

molten[®]
For the real game



For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」
私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに
世界に類のない、ボールとスポーツエキップメント・メーカーとして
常に完璧な製品づくりを目指しています。





BASKETBALL STREET

渋谷センター街では、スポーツ振興と青少年の健全育成を基本理念に、国際色・ファッション性を考え合わせ、メイン通りの名を「バスケットボールストリート」とし、2012年秋にはシンボルとなるモニュメントも設置いたしました。

5年10年と時をかけて、、、
この「バスケットボールストリート」通称「バスケ通り」を定着させていきたいと考えています。



バスケットボール ストリート



渋谷センター街